



ヤギと触れ合うお年寄りと園児

## 高齢者と子ども笑顔

### ヤギ飼育触れ合い育む

「メエー」。鳴き声が聞こえてきたのは、福山市の共用墓地の中からだ。木之庄町を横断する県道から小道に入ると、2頭のヤギが

草を食べていた。雑草が伸びた敷地内をきれいにするだけでなく、高齢者と子どもたちのつなぎ役として大事な役目を担っている。

飼い主は、町内で保育園や高齢者向け施設を営むNPO法人「地域の絆」。動物と触れ合うことで園児に豊かな心を育んでもらおうと、昨年6月に飼い始めた。朝晩は園庭で世話をし、園児が餌を与える。日中は高齢者施設の利用者が、スタッフと一緒に隣の墓地を散歩する。

「ヤギが来てから、皆さんの表情がさらに柔らかいんです」。施設の管理者山下法子さん(46)もうれしう。世話をきっかけに、利用者が子どもと触れ合う機会が増えたからという。

近くの北吉津町から通う高木泰枝さん(83)もその一人。しわしわの手で、園児の小山風斗ちゃん(3)たちの手を握り、「ヤギさん、かわいいね」と声を掛けた。「幼い子」というと自然に元気が出る。抱っこしてあげたいわ」と声を張り、腰を伸ばした。(湯浅梨奈)